

平成24年7月24日

「FFG生活者アンケート調査」の新設ならびに調査結果のお知らせ

福岡ファイナンシャルグループのグループ会社である株式会社FFGビジネスコンサルティングでは、この度、新たに「FFG生活者アンケート調査」を実施しました。

この調査は、その時々の特ピックスや社会的な動向に着目し、九州にお住まいの方々を対象とした消費者行動や社会心理に関するアンケートを行なうことにより、より早く・より身近な目線で地域の皆さまの生活者意識を捉えようとする初めての取組みです。

今回は、7月以降にも次々と福岡空港に就航が予定されている「格安航空会社（LCC※1）に関する意識調査」と共に、7月27日から開催される「ロンドンオリンピックに関する意識調査」も併せて実施しました。調査結果をまとめましたので、その概要をお知らせいたします。

今後も、様々な特ピックスや社会情勢の変化に着目した「FFG生活者アンケート調査」を実施してまいります。どうぞ、ご期待ください。

※1 LCCとは、Low-Cost Carrierの略称で、効率的な運営により低価格運賃で運行サービスを提供する航空会社。

【調査項目】

1. 格安航空会社（LCC）に関する意識調査（FFG生活者アンケート調査 Vol.1）
2. ロンドンオリンピックに関する意識調査（FFG生活者アンケート調査 Vol.2）

【調査概要】

1. 調査対象：福岡県在住の男女300人
2. 調査時期：平成24年6月
3. 調査方法：インターネット調査
4. 回答者の属性

（上段：件数、下段：構成率、%）

	全体	男性	女性
全体	300	150	150
	100.0	50.0	50.0
20代	60	30	30
	20.0	10.0	10.0
30代	60	30	30
	20.0	10.0	10.0
40代	60	30	30
	20.0	10.0	10.0
50代	60	30	30
	20.0	10.0	10.0
60代	60	30	30
	20.0	10.0	10.0

以上

《 本件に関するご照会先 》

福岡ファイナンシャルグループ 営業企画部 田中、真田
TEL 092 - 723 - 2576

格安航空会社（LCC）に関する意識調査

【調査結果の概要】

1. 格安航空会社（LCC）の認知度については、国内で既に就航しているLCCの認知度は概ね高いものの、今後新たに就航を予定している会社ならびに海外LCCの認知度はまだ低い。
2. LCCに対するイメージについては、1位は「料金が手ごろな」78.0%、2位は「庶民的」41.3%と、低価格のイメージが先行している結果となった。
3. 今後のLCC利用の意向については、「機会があれば利用したい」が1位で44.7%、「既に利用しており、今後も利用したい」が2位で11.7%、「あまり利用したいとは思わない」が3位で11.0%と、今後、利用が増えていく可能性が見込まれる結果となった。
4. LCCに対する消極的利用意向15.3%（内訳：「あまり利用したいとは思わない」11.0%、「利用したいとは思わない」4.3%）のうち、その理由は、「安全性が心配」が1位で67.4%、「事故の場合の補償が心配」が2位で47.8%、「座席や通路が狭い」が3位で43.5%との結果となった。

1. 調査対象：福岡県在住の20歳～69歳の男女300人
2. 調査時期：平成24年6月
3. 調査方法：インターネット調査
4. 回答者の属性

（上段：件数、下段：構成率、%）

	全体	男性	女性
全体	300	150	150
	100.0	50.0	50.0
20代	60	30	30
	20.0	10.0	10.0
30代	60	30	30
	20.0	10.0	10.0
40代	60	30	30
	20.0	10.0	10.0
50代	60	30	30
	20.0	10.0	10.0
60代	60	30	30
	20.0	10.0	10.0

【調査の目的】

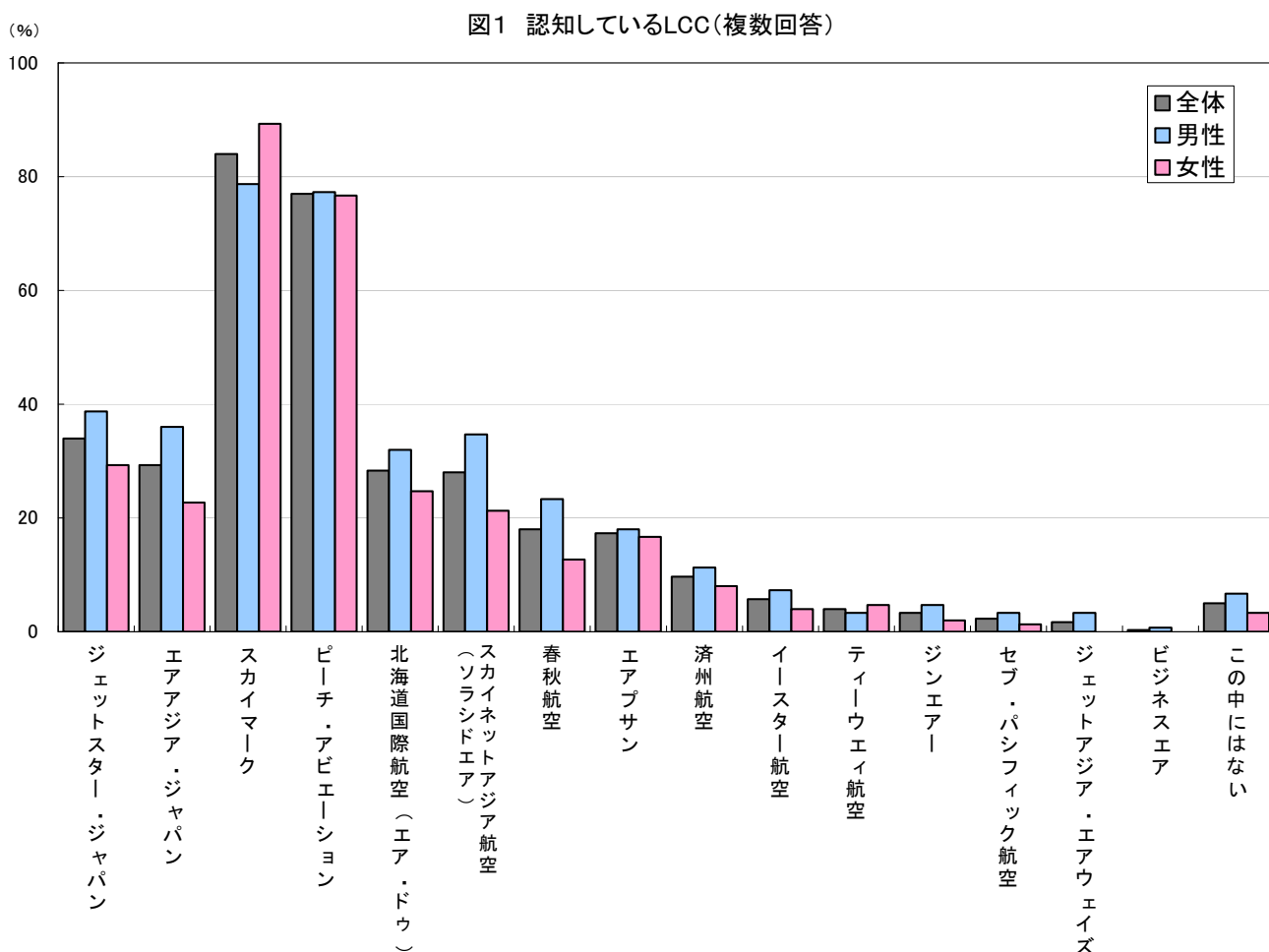
今年、国内初の本格的な格安航空会社（Low-Cost Carrier:LCC）であるピーチ・アビエーションが3月に、ジェットスター・ジャパンが7月にそれぞれ運行を開始し、さらに、8月は新たにエアアジア・ジャパンが日本の空への参入を予定する等、今年には本格的なLCC元年となっています。

そのようなLCCに対する消費者の認知度および利用意向について、FFGビジネスコンサルティングでは福岡県在住の方々に対してLCCについてのアンケート調査を行いました。

問1. 格安航空会社（LCC）として知っているものはどれですか（複数回答）

国内で既に就航している航空会社の認知度は概ね高いものの、今後新たに参入を予定している航空会社や海外のLCCの認知度はまだまだ低い状況。福岡空港に乗り入れしている2社（スカイマーク、ピーチ・アビエーション）の認知度は8割前後と突出している。

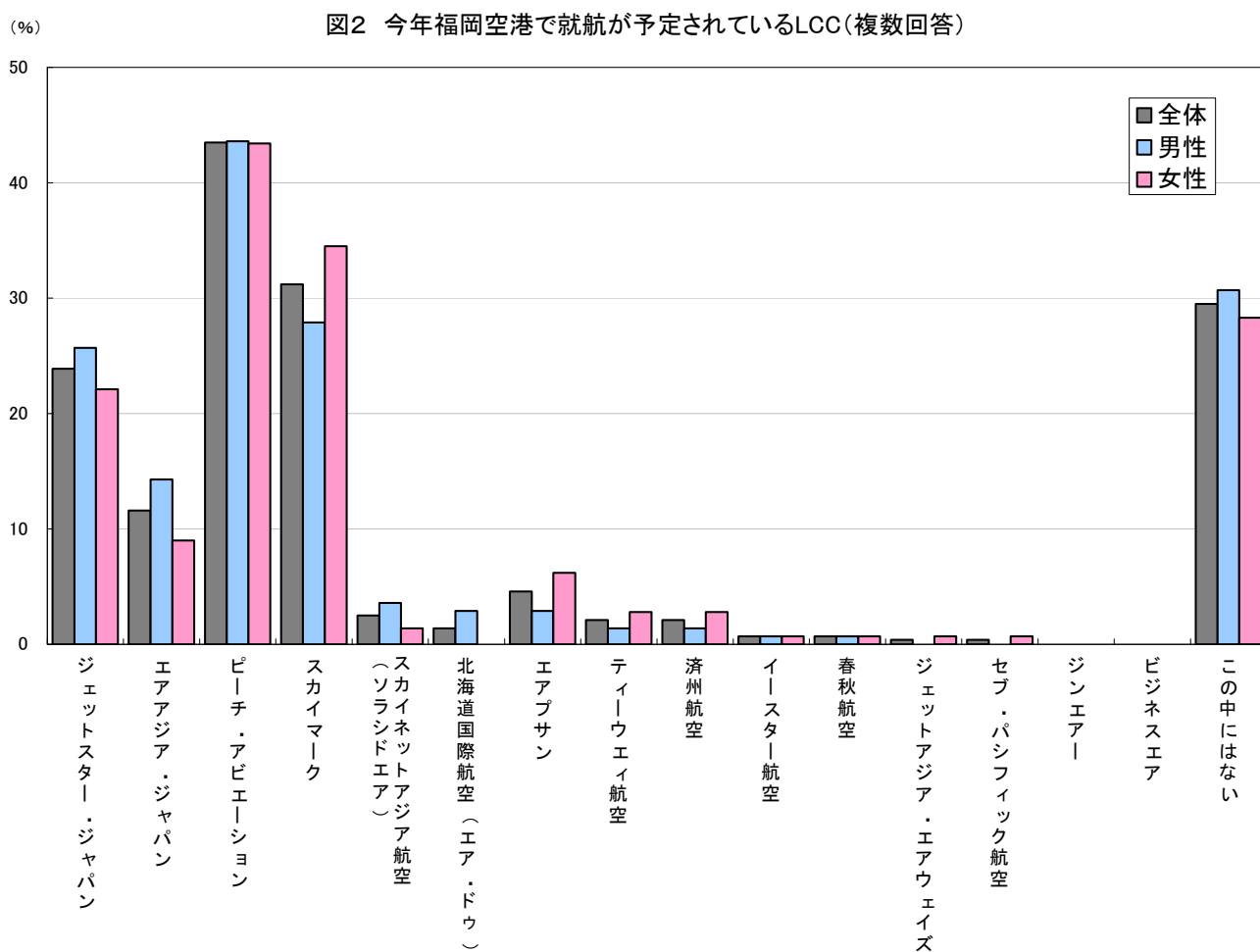
（注）スカイマーク、スカイネットアジア航空、北海道国際航空の3社については、全日空や日本航空などの大手航空会社と比べ、使用機種¹の統一や機内サービスの簡素化等に取り組んでいることから、本件アンケート調査ではLCCとして取り扱っている。



問2. 今年、福岡空港で就航が予定されている格安航空会社（LCC）（複数回答）

今年、福岡空港で就航が予定されている格安航空会社について尋ねたところ（問1で、認知しているLCCが「この中にはない」と答えた回答者を除く）、最も高かった回答率は、本調査時点で既に福岡空港に就航している「ピーチ・アビエーション」（全日空系）で43.5%であった。7月に福岡空港に就航した「ジェットスター・ジャパン」（日本航空系）および今年中の就航を予定している「エアアジア・ジャパン」（全日空系）2社の回答率については、それぞれ23.9%、11.6%の認知度であった。

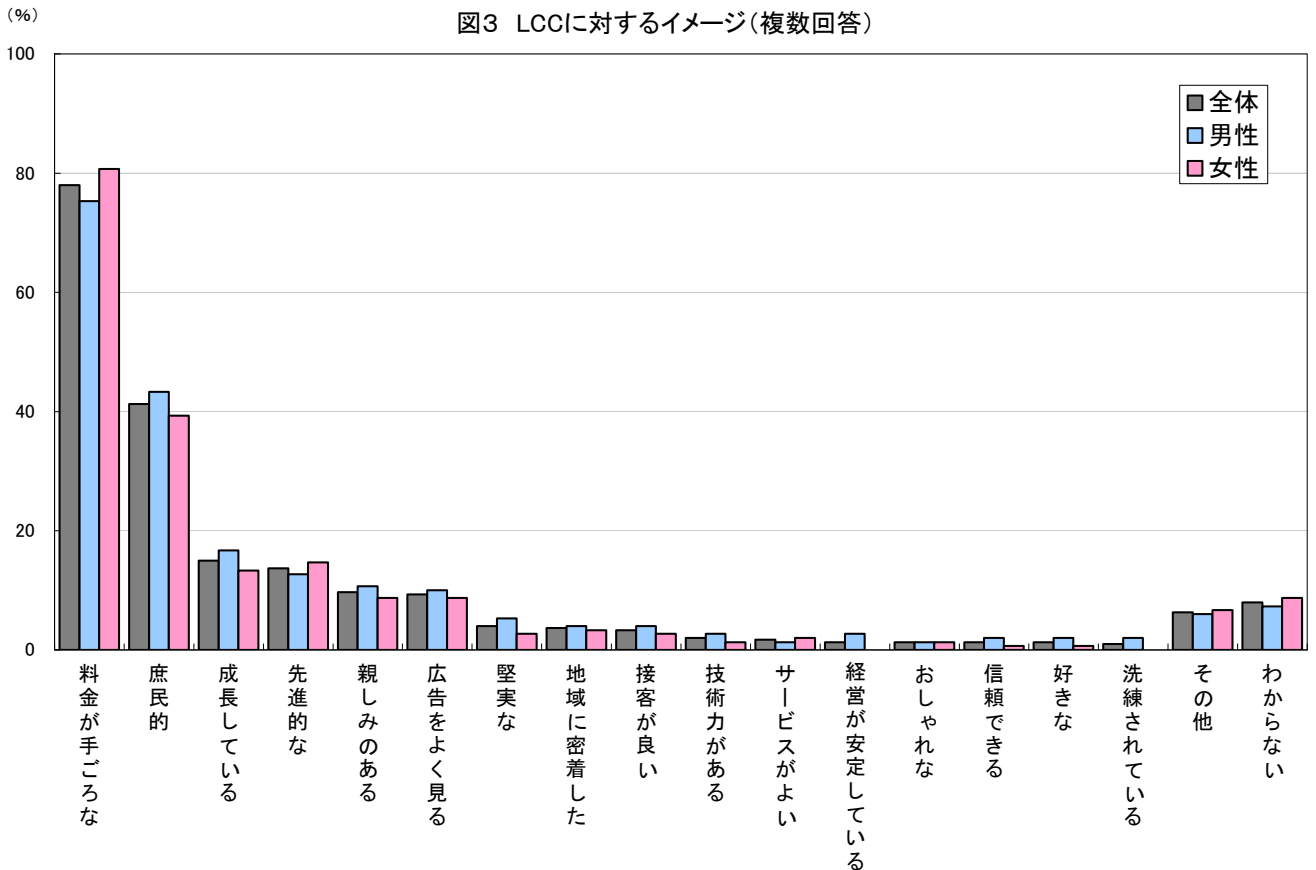
海外のLCCについては、福岡空港に就航している「エアプサン」（2010年福岡線就航）、「済州航空」（2012年3月福岡線就航）に対する回答率は4.6%、2.1%と他の海外LCCも含め低い認知度であった。また「この中にはない」との回答も29.5%を記録する等、福岡空港に就航する海外LCCの認知度の低さが表れる結果となった。



問3. 格安航空会社（LCC）に対するイメージ（複数回答）

LCCに対するイメージについては、「料金が手ごろな」が78.0%と突出しており、次いで「庶民的」が41.3%、「成長している」が15.0%と、低価格に対するイメージが先行していることが分かった。

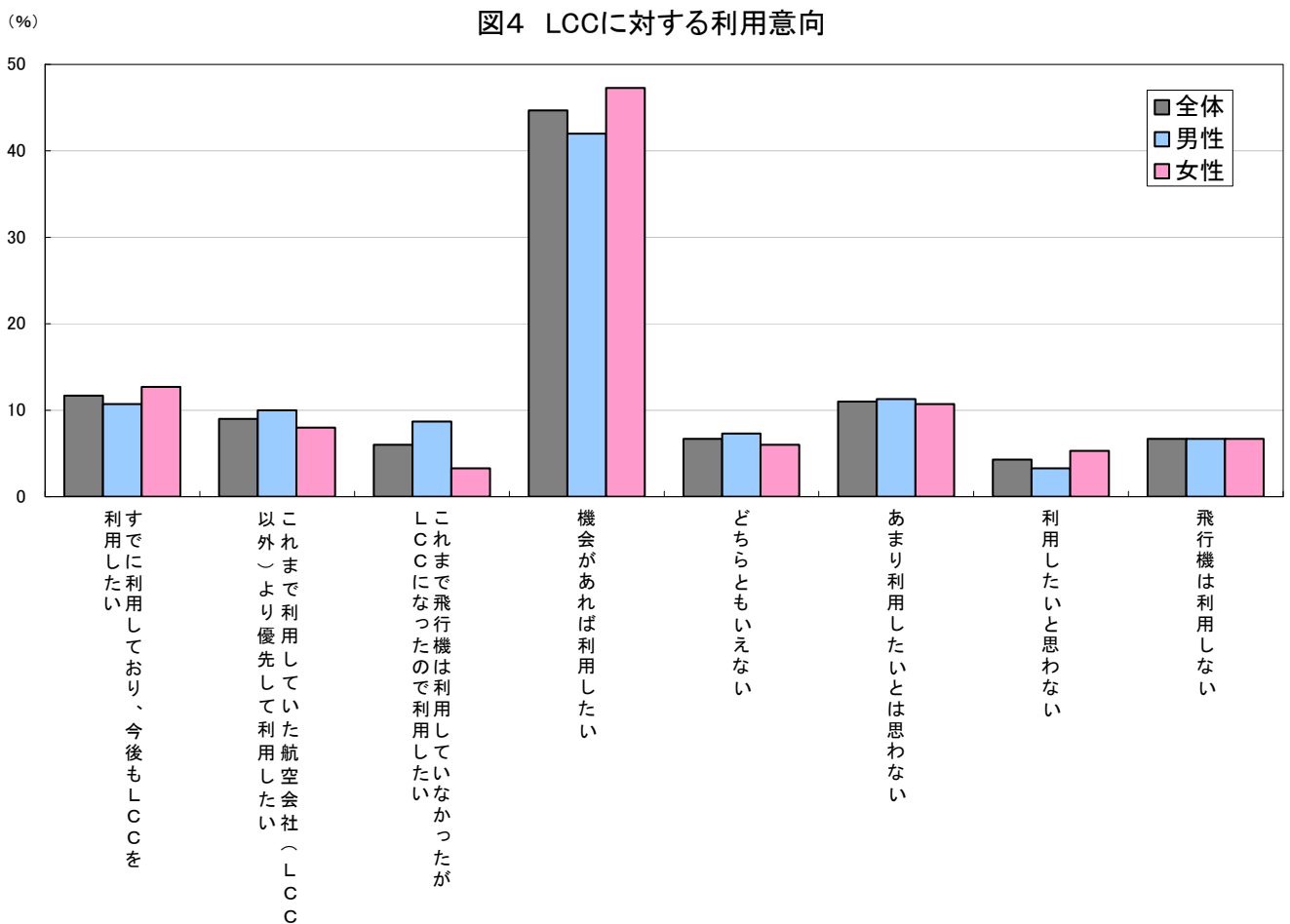
一方で、「サービスがよい」「経営が安定している」へのイメージは、それぞれ1.7%、1.3%となる等、料金の安さゆえ、サービスの提供や経営の健全度合いに対する顧客のイメージは低く、今後本格的な参入により、LCCに対するこれらのイメージがどのように変化するか注目される。



問4. 格安航空会社（LCC）に対する利用意向

LCCに対する利用意向について尋ねたところ、第一位は「機会があれば利用したい」が44.7%、次いで「すでに利用しており、今後もLCCを利用したい」が11.7%、「あまり利用したいとは思わない」が11.0%となった。

大手航空会社からのシフトや新たな需要が期待される質問に対して「これまで利用していた航空会社（LCC以外）より優先して利用したい」は9.0%、「これまで飛行機は利用していなかったが、LCCになったので利用したい」は6.0%と、大手航空会社や新幹線等LCC以外からの積極的なシフト意向については限定的という結果となった。



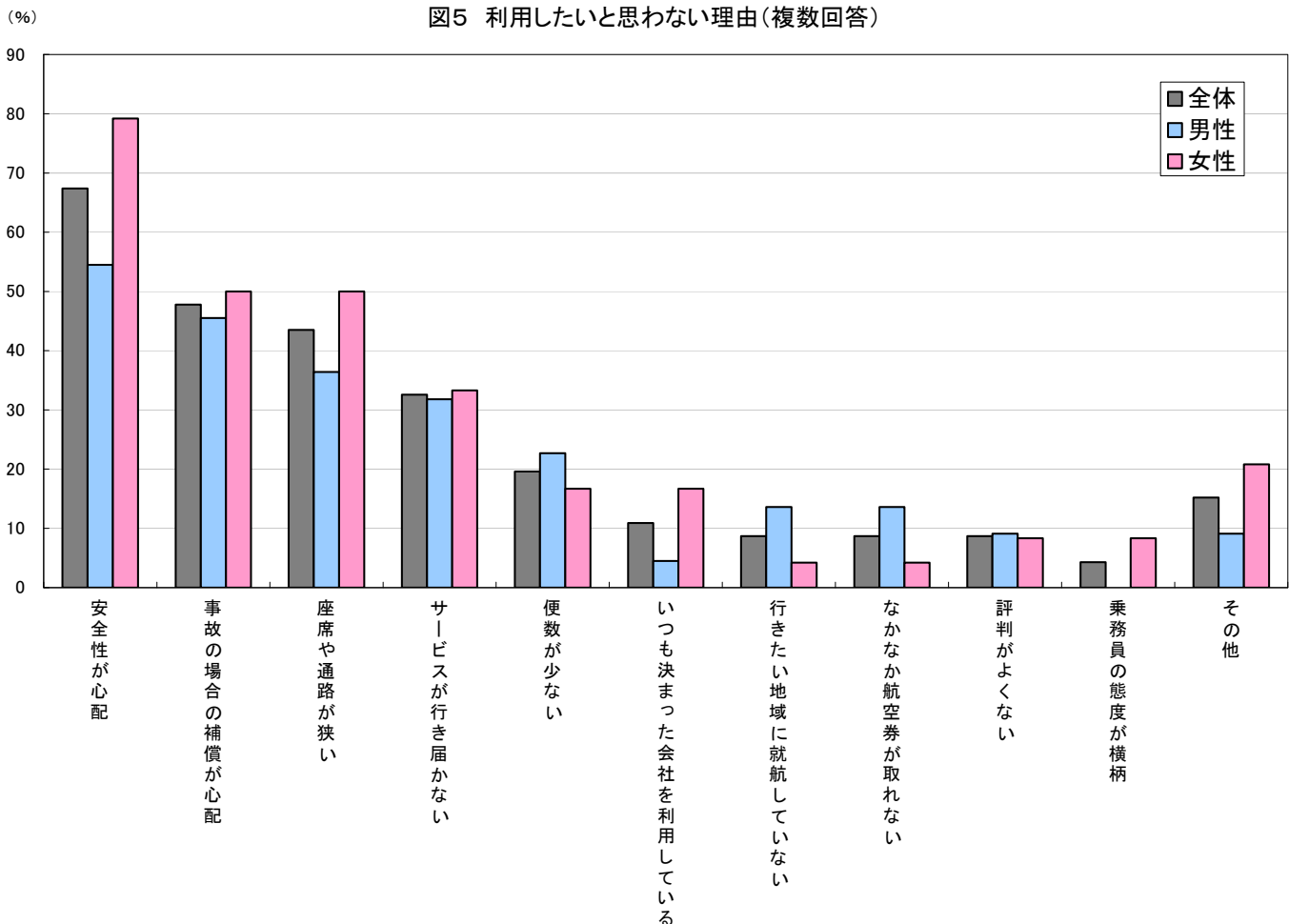
問5. 格安航空会社（LCC）を利用したいと思わない理由（問4で「あまり利用したいと思わない」「利用したいと思わない」との回答者限定：複数回答）

問4にて、LCCを「あまり利用したいと思わない」「利用したいと思わない」との回答者に対して、その理由について尋ねたところ、最も多かった理由は「安全性が心配」で67.4%、次いで「事故の場合の補償が心配」が47.8%、「座席や通路が狭い」が43.5%、「サービスが行き届かない」が32.6%という結果となり、問3（LCCに対するイメージ）と同様、LCCは低価格が最大の武器であるが、安全性の確保や、補償対応、そしてサービス面に対して、顧客が不安を感じている結果となった。

第一位の「安全性が心配」との回答（67.4%）のうち、男女別の内訳において男性が54.5%、女性が79.2%と男女で回答に20ポイント以上の差があった。

これらの不安要素がLCCを利用したいと思わない理由として上位にあがった。

図5 利用したいと思わない理由（複数回答）



ロンドンオリンピックに関する意識調査

【調査結果の概要】

1. ロンドンオリンピックの認知度については、全体では「ロンドンで開催されることを知っている」が94.7%となり、認知度は極めて高い。
2. 応援したい競技種目は、1位は「男子サッカー」49.7%、2位は「水泳」49.3%、3位は「女子サッカー」46.7%という結果となった。
3. 応援したい選手は、1位は「北島康介」得票数85、2位は「内村航平」得票数33となり、過去の国際大会等で実績のある選手に加えて、地元九州出身の選手を応援する傾向も見られた。
4. 日本選手が金メダルを獲得できると思う競技種目は、1位は「水泳」53.0%、2位「体操」45.0%、3位「柔道」42.0%という結果となった。また、なでしこジャパンの「女子サッカー」の金メダル獲得への期待も大きい。
5. 日本選手団により獲得が期待される金メダルの合計数は、5.8個となった。なお、年齢層別では、60代の回答者の予想個数が6.4と最も多くなっている。

1. 調査対象：福岡県在住の20歳～69歳の男女300人
2. 調査時期：平成24年6月
3. 調査方法：インターネット調査
4. 回答者の属性

(上段：件数、下段：構成率、%)

	全体	男性	女性
全体	300	150	150
	100.0	50.0	50.0
20代	60	30	30
	20.0	10.0	10.0
30代	60	30	30
	20.0	10.0	10.0
40代	60	30	30
	20.0	10.0	10.0
50代	60	30	30
	20.0	10.0	10.0
60代	60	30	30
	20.0	10.0	10.0

【調査の目的】

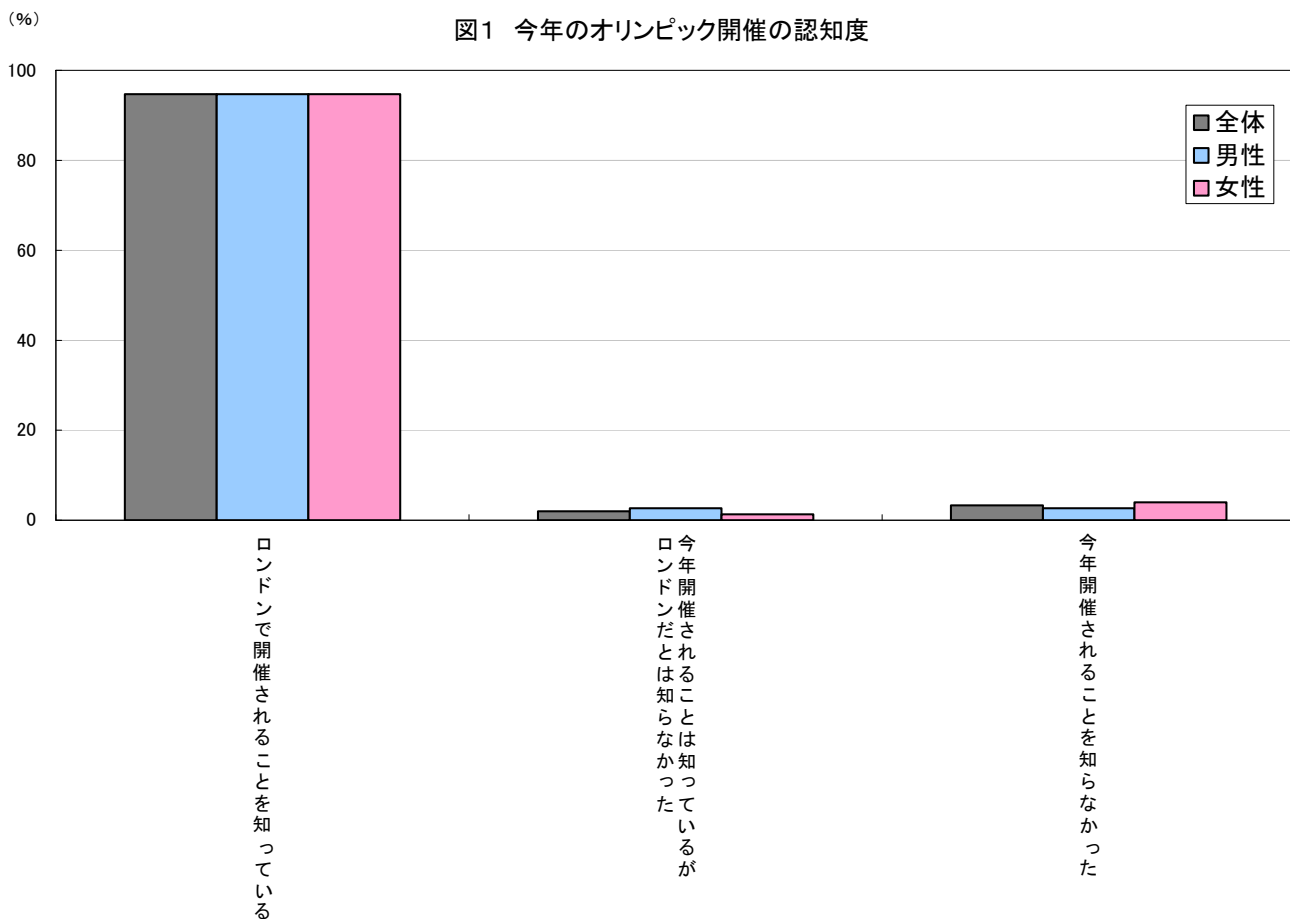
今年、7月27日から8月12日までの17日間にわたって、英国・ロンドンで「ロンドンオリンピック（第30回オリンピック競技大会）」が開催されます。日本国内においても応援ムードが高まる等、世界最大のスポーツの祭典とも言えるこのイベントに各方面から注目が集まっています。

そのようなロンドンオリンピックに関する認知度および応援したい競技種目、選手等について、FFG ビジネスコンサルティングでは福岡県在住の方々に対してアンケート調査を行いました。

問1. 今年、オリンピックがロンドンで開催されることを知っていますか

今年7月に開催されるロンドンオリンピックについて尋ねると、全体では「ロンドンで開催されることを知っている」が94.7%となり、認知度は極めて高くなっている。

また、認知度の高さは、性別、年齢を問わず同様の傾向が表れている。

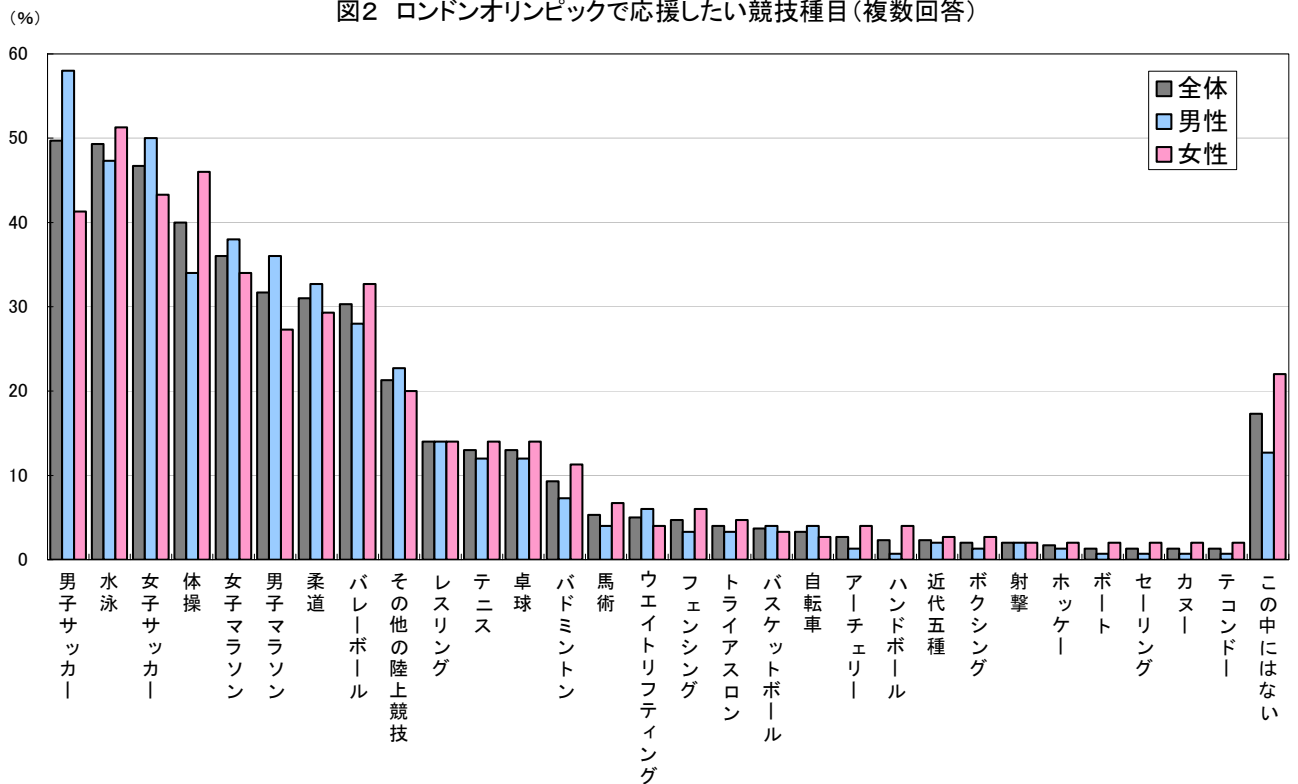


問2. あなたが応援したい競技種目（複数回答）

福岡県民が応援したい競技種目は、全体では「男子サッカー」が49.7%と最も多く、次いで「水泳」が49.3%、「女子サッカー」が46.7%、「体操」が40.0%という結果になり、その他「女子マラソン」「男子マラソン」「柔道」「バレーボール」等が上位に並んだ。

男性の回答者では、「男子サッカー」「女子サッカー」等への応援が多かったのに対し、女性の回答者では、「水泳」「体操」等への応援が多くなっている。

図2 ロンドンオリンピックで応援したい競技種目（複数回答）



問3. あなたが応援したい選手（3名以内）

福岡県民が応援したい選手は、「北島康介（男子水泳・平泳ぎ）」が得票数85で第一位となり、次いで「内村航平（男子体操）」が得票数33、「澤穂希（女子サッカー）」が得票数17となり、過去の国際大会等で実績のある選手やメディア等で知名度の高い選手が上位に並んだ。

なお、北九州市出身で中学時代まで長崎県諫早市で過ごした内村航平選手の他、同じく諫早市出身の「藤原新（男子マラソン）」、福岡県出身で九州国際大学付属高校卒の「潮田玲子（女子バドミントン）」、北九州市出身の「竹下佳江（女子バレーボール）」等の地元九州出身の選手を応援する傾向も見られる。

図3 応援したい選手(3名以内回答)

順位	選手名(出場種目)	得票
1位	北島 康介 (男子水泳・平泳ぎ)	85
2位	内村 航平 (男子体操)	33
3位	澤 穂希 (女子サッカー)	17
4位	福原 愛 (卓球)	14
5位	藤原 新 (男子マラソン)	13
6位	田中 理恵 (女子体操)	10
	吉田 沙保里 (女子レスリング)	10
8位	錦織 圭 (男子テニス)	9
	室伏 広治 (男子ハンマー投)	9
10位	木村 沙織 (女子バレーボール)	8
11位	本田 圭佑 (—)	7
12位	福島 千里 (女子100M・200M)	6
13位	潮田 玲子 (女子バドミントン)	5
	竹下 佳江 (女子バレーボール)	5
	香川 真司 (—)	5
16位	福土 加代子 (女子10000M)	4
17位	太田 和臣 (男子重量挙げ)	3
	中本 健太郎 (男子マラソン)	3
19位	穴井 隆将 (男子柔道)	2
	狩野 舞子 (女子バレーボール)	2
	ディーン 元気 (男子やり投げ)	2
	寺川 綾 (女子水泳・背泳ぎ)	2
	浅田 真央 (—)	2
	長谷部 誠 (—)	2

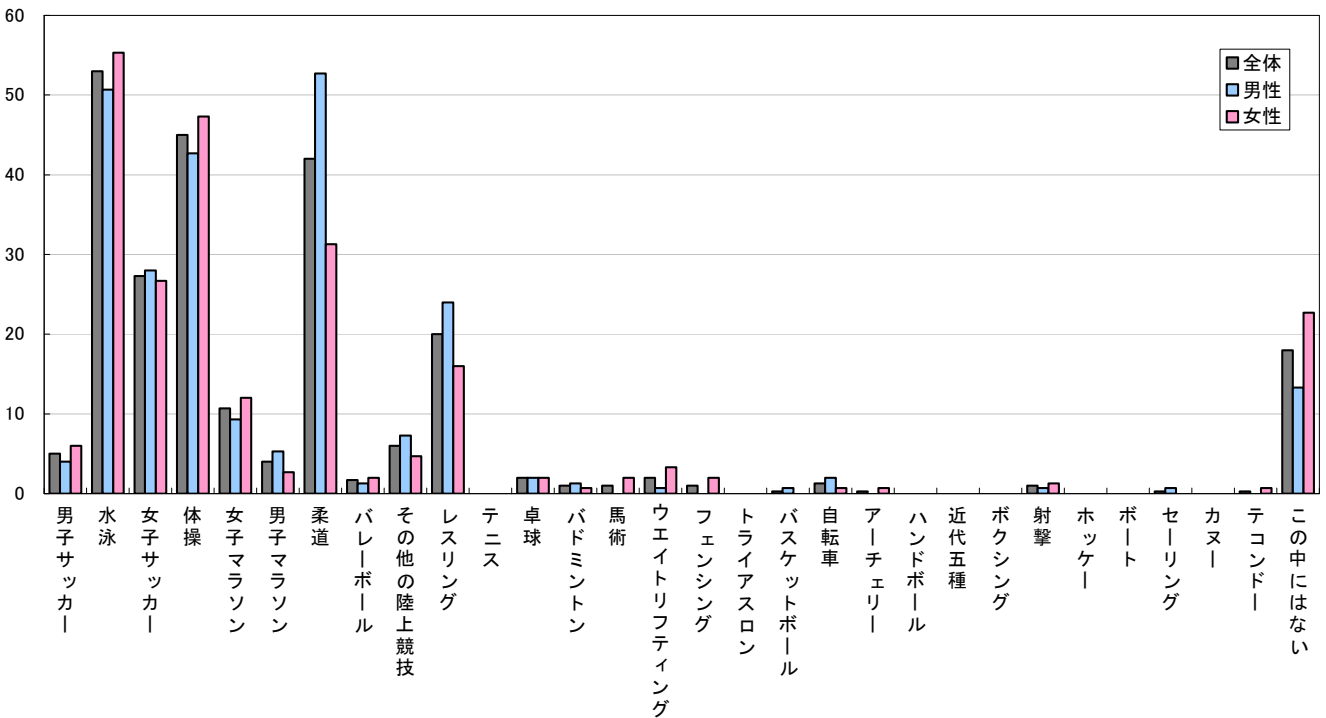
* 得票2票以上のみ記載。苗字のみは記載せず。

問4. 日本選手が金メダルを獲得できると思う競技種目（複数回答）

続いて、日本選手が獲得できると思う競技種目について尋ねると、全体では「水泳」が53.0%と最も多く、次いで、「体操」が45.0%、「柔道」が42.0%という結果になった。また、なでしこジャパンの「女子サッカー」の金メダル獲得への期待も大きい。

なお、応援したい競技種目と金メダル獲得が期待できる競技種目とは必ずしも一致しない。これは種目ごとに、有力選手の有無や強豪ライバルの存在等が影響している可能性がある。

図4 日本選手が金メダルを獲得できると思う種目（複数回答）



問5. 日本選手団が獲得すると思う金メダルの合計数

最後に、今回のロンドンオリンピックで日本選手団により獲得が期待される金メダルの合計数は、全体では5.8個となった。（過去の金メダルの獲得個数は、前回2008年の北京オリンピックでは9個。前々回2004年のアテネオリンピックでは16個である。）

なお、男女別では、男性の回答者の方が6.0個と女性の5.6個を上回っている。また、年齢層別では、60代の方の予想個数が6.4と最も多くなっている。

